



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

Title	模擬患者・標準模擬患者(SP)養成のカリキュラム(本文(Fulltext))
Author(s)	志村, 俊郎; 吉井, 文均; 吉村, 明修; 阿部, 恵子; 高橋, 優三; 佐伯, 晴子; 藤崎, 和彦; 阿曾, 亮子; 井上, 千鹿子
Citation	[医学教育 = Medical education] vol.[43] no.[1] p.[33]-[36]
Issue Date	2012-02-25
Rights	Japan Society for Medical Education (一般社団法人日本医学教育学会)
Version	出版社版 (publisher version) postprint
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/46360

この資料の著作権は、各資料の著者・学協会・出版社等に帰属します。

委員会報告

模擬患者・標準模擬患者 (SP) 養成のカリキュラム

第 16 期日本医学教育学会教材開発・SP 委員会

志村 俊郎^{*1, 1)} 吉井 文均^{*2, 2)} 吉村 明修^{*1}
 阿部 恵子^{*3} 高橋 優三^{*4} 佐伯 晴子^{*5}
 藤崎 和彦^{*6, 3)} 阿曾 亮子^{*1, 4)} 井上千鹿子^{*1, *7, 4)}

要 旨 :

- 1) 第 16 期教材開発・SP 委員会は、全国の実態調査等に基づき、基本的な模擬患者・標準模擬患者の養成カリキュラムを策定した。
- 2) このカリキュラムでは、SP となるために修得すべき必須項目として、対人コミュニケーション、医学教育における SP 参加型教育、医学教育における医療面接を示した。
- 3) 医療面接における必須項目として、基本的事項、シナリオの理解、役作りと演技、フィードバックと評価を示した。
- 4) 養成された SP が実際の教育場面に参加するに当たっては、SP を養成した施設あるいは組織において適切な評価を行うとともに、その評価方法が明示される必要がある。

キーワード：模擬患者・標準模擬患者，カリキュラム，対人コミュニケーション，SP 参加型教育，医療面接

Training Curriculum for Simulated and Standardized Patients: The 16th Medical Simulation Committee of the Japan Society for Medical Education

Toshiro SHIMURA^{*1, 1)} Fumihito YOSHI^{*2, 2)} Akinobu YOSHIMURA^{*1}
 Keiko ABE^{*3} Yuzo TAKAHASHI^{*4} Haruko SAEKI^{*5}
 Kazuhiko FUJISAKI^{*6, 3)} Ryoko ASO^{*1, 4)} Chikako INOUE^{*1, *7, 4)}

Summary :

1. The basic training curriculum for simulated and standardized patients (SPs) was provided by the 16th Medical Simulation Committee based upon a nationwide field survey that was conducted by the committee in 2009 and other data.

*1 日本医科大学教育推進室, Academic Quality and Development Office, Nippon Medical School
 [〒 113-8602 東京都文京区千駄木 1-1-5]

*2 東海大学医学部内科学系神経内科, Department of Neurology, Tokai University School of Medicine

*3 名古屋大学大学院医学系研究科地域医療教育学講座, Department of Education for Community-Oriented Medicine, Nagoya University Graduate School of Medicine

*4 岐阜大学大学院医学系研究科寄生虫学, Department of Parasitology, Gifu University Graduate School of Medicine

*5 東京 SP 研究会, Tokyo Working Group for Simulated Patient on Communication

*6 岐阜大学医学部医学教育開発研究センター, Medical Education Development Center, Gifu University

*7 愛知医科大学大学院医学研究科, Aichi Medical University Graduate School of Medicine

1) 委員長, 2) 副委員長, 3) 顧問, 4) 協力者

1) Chairman, 2) Vice-Chairman, 3) Adviser, 4) Collaborator

2. The curriculum consists of 3 essential programs: interpersonal communication, medical education involving SPs, and the medical interview.
3. The medical interview program was composed of basic issues, comprehension of scenarios, acting role and performance, and feedback and assessment.
4. The training facilities or institutions were recommended to properly assess the performance quality of SPs in the educational setting by means of a specific and clearly defined evaluation method.

Key words: simulated and standardized patients, curriculum, communication, medical education involving standardized patients, medical interview

1. 緒言

日本における組織的なSP*養成は1992年に始まり、すでに19年が経過した。その間、医学教育におけるコミュニケーション、医療安全、生命倫理など、SPが参加する教育機会は増加し、研修医教育、歯科医学教育、薬学教育など他の分野への展開などにより、今後いろいろな教育場面でSPが必要とされることが予想される¹⁾。また、共用試験OSCEにおける標準模擬患者の演技の標準化、Advanced OSCEの導入と医療面接における標準模擬患者の演技の標準化、わが国の実情に即した身体診察SPの導入などの問題点が課題として指摘されている¹⁾。

第16期教材開発・SP委員会は、「模擬患者・標準模擬患者養成および参加型教育に関する実態調査」を実施し、学内、学外にかかわらないSP養成の推進、SP養成の標準化の必要性を提言した²⁾。そして、医学教育におけるSPの意義・役割を社会、医学部の教員・学生等が理解し、SPが参加する教育が医学部教育に益々寄与するために、SPとしての活動目的を明示するとともに、SP養成のために到達目標、行動目標が示されたカリキュラムを策定する必要性を示した。

SPは日本における医学教育を理解し、各医学部・医科大学の教育理念・教育方針に賛同し、患者のための医療を目指す医師を育てる人材として協力するものである。医療面接および試験等のプログラムにおいてSPとして患者役を果たし、医学生、研修医、医師およびその他の医療従事者等の技術およびコミュニケーション能力を向上させ

て信頼される医療人を育てることを目的とする。SPは患者役としての能力向上のために必要な知識と技術を習得し、常に自己研鑽に励むことが望まれる^{3,4)}。

第16期教材開発・SP委員会は、全国の実態調査等に基づき、一般的なSP参加型教育のために模擬患者・標準模擬患者の養成カリキュラムを策定した。このカリキュラムは、医学部教育におけるSP養成を目的としたものであるが、研修医教育、歯科医学教育、薬学教育など他の分野にも応用できる基本的な内容とした。身体診察、身体援助に関わるSPの養成については、今後の課題とする。

なお、共用試験OSCEの標準模擬患者については、医療系大学間共用試験実施評価機構が別途定めるものであるが、本カリキュラムは参考になるものと考えている。

SPとなるために修得すべき必須項目として、I. 対人コミュニケーション、II. 医学教育におけるSP参加型教育、III. 医学教育における医療面接を掲げ、SP活動の主体となる項目IIIでは、医療面接の基本的事項、医療面接のシナリオの理解、役作りと演技、フィードバックと評価について習得すべき到達目標を示した。このカリキュラムに基づいて養成されたSPが実際の教育場面に参加するに当たっては、SPを養成する施設あるいは組織において適切な評価を行うとともに、その評価方法が明示される必要がある。

*註1 なお、本文中の模擬患者・標準模擬患者は一括してSPとして表記し、模擬患者、標準模擬患者を区別する必要がある場合には、それぞれ模擬患者、標準模擬患者と記載した。

表1 対人コミュニケーションの技法

- ・開放型質問, 閉鎖型質問
- ・沈黙
- ・うながし
- ・繰り返し (オウム返し)
- ・明確化, 言い換え
- ・要約
- ・確認, 質問のチャンスを与える
- ・声かけ, 社会的な会話など

表2 医療面接における患者-医師関係のコミュニケーションの特徴

- ・医療面接の3つ役割軸モデル(情報収集, ラポール形成, 情報提供)
- ・医療面接における導入と締めくくり
- ・ラポールの形成
- ・主訴に関する必須7項目(部位, 性状, 程度, 経過, 起きる状況, 増悪寛解因子, 随伴症状)
- ・解釈モデル
- ・システム・レビュー
- ・既往歴
- ・家族歴

2. カリキュラム

I. 対人コミュニケーション

SPが医学教育に協力するために、SPは基本的なコミュニケーションについて理解し、良好なコミュニケーションができる。

I-1 基本的な対人コミュニケーション

I-1-1 対人コミュニケーションの基本事項について説明できる(認知)。

I-1-2 対人コミュニケーションの技法について説明できる(認知)(表1)。

I-2 良好なコミュニケーション

I-2-1 学習者(学生など)、他のSP、教員に対して、良好なコミュニケーションができる(技能)。

I-2-2 学習者(学生など)、他のSP、教員に対して、共感的理解の態度が取れる(態度)。

I-3 医療面接におけるコミュニケーション

I-3-1 医療面接における患者-医師関係のコミュニケーションの特徴を説明できる(認知)(表2)。

II. 医学教育におけるSP参加型教育

SPは医学教育に協力するために、SP参加型教育について理解できる。

II-1 医学教育における模擬患者と標準模擬患者の違いを理解し、それぞれの役割と意義を説明できる(認知)。

II-2 SPとして、能力向上のため必要な知識と技術を習得し、常に自己研鑽に励む態度を持つ(態度)。

II-3 学習者(学生など)に対して適切な態度で

接することができる(態度)。

II-4 教育の目的や対象によってSPの役割が違うことを説明できる(認知)。

II-5 当該教育機関の教育指針を理解し、その方針に従って行動できる(態度)。

II-6 実習、試験、講習等で得られた事項に関して、守秘することができる(態度)。

III. 医学教育における医療面接

1. 医療面接の基本的事項

III-1 SPにとって必要な医療面接の基本的な事項について理解できる。

III-1-1 医学教育における医療面接の意義を説明できる(認知)。

III-1-2 医学教育における医療面接教育の目的について説明できる(認知)。

III-1-3 医学教育における医療面接教育のSPの役割を説明できる(認知)。

2. 医療面接シナリオの理解

III-2 シナリオを理解できる。

III-2-1 シナリオの目的を理解できる(認知)。

III-2-2 シナリオの患者背景を理解できる(認知)。

III-2-3 シナリオの病状・経過を理解できる(認知)。

III-2-4 シナリオに書かれた用語を理解できる(認知)。

3. 役作りと演技

III-3 医療面接のシナリオに基づいて、役作りと演技をすることができる。

- Ⅲ-3-1 シナリオの内容を記憶し、設定されている背景や気持ちに基づいて役作りができる (技能).
- Ⅲ-3-2 医師役からの質問・説明に対して、シナリオで示されている方向性に則って適切に応答できる (技能).
- Ⅲ-3-3 シナリオに示されている患者を学習目的に沿った現実感のある演技ができる (技能).

4. フィードバックと評価

- Ⅲ-4 医療面接の場面で起きた患者の気持ちの動きを十分に伝えるようなフィードバックができる.
 - Ⅲ-4-1 医療面接教育におけるフィードバックの目的について説明できる (認知).
 - Ⅲ-4-2 医療面接教育におけるフィードバックの教育上の効果を理解できる (認知).
 - Ⅲ-4-3 医療面接の場面で起きた出来事と患者の気持ちの動きを記憶できる (技能).
 - Ⅲ-4-4 医療面接の場面で起きた出来事と患者の気持ちの動きを適切に言語化できる (技能).
 - Ⅲ-4-5 医療面接の場面で起きた出来事と患者の気持ちの動きをSPの視点から教育的にふさわしい形で学習者にフィードバックできる (技能).
 - Ⅲ-4-6 評価の目的と方法について理解し、SPの立場から学生の評価ができる (技能).

文 献

- 1) 藤崎和彦. 4 卒前教育技法 4. SP養成. 第1部 現状と振り返り. 医学教育白書2010年版 (日本医学教育学会編). 篠原出版新社, 東京, 平成22年7月30日, p52-54.
- 2) 志村俊郎, 吉井文均, 吉村明修, 阿部恵子, 高橋優三, 佐伯晴子, 藤崎和彦, 阿曾亮子, 井上千鹿子. 医学部・医科大学における模擬患者・標準模擬患者養成および参加型教育に関する実態調査 (第16期日本医学教育学会教材開発・SP委員会). 医学教育 2011; 42 (1): 29-35.
- 3) 日本医科大学模擬患者憲章 (<http://www.nms.ac.jp/suisin/sp/2011/spkensho.html>)
- 4) 東京SP研究会倫理綱領 (<http://www.tokyosp-kenkyukai.com/>)